

# ビジネス社 News Release

2019年、日中同時破綻の大波乱

## 『米国が仕掛けるドルの終わり』

ドル基軸通貨時代の終焉、中国の不動産バブル崩壊、世界経済はこう激変する!

(著者)吉田繁治

(価格)1,800円+税 〈発売日〉2017年7月25日 〈出版元〉ビジネス社

株式会社ビジネス社(本社:東京都新宿区 代表取締役社長:唐津隆)は、2017年7月25日に『2019年、日中同時破綻の大波乱 米国が仕掛けるドルの終わり』を発売いたしました。

ドル基軸通貨時代の終焉中国の不動産バブル崩壊…。増発されるフィアットマネーが弾けるとき、アメリカは“ドル切り下げ”で再び借金を踏み倒す! 資産防衛はゴールドしかない。

ドル基軸が終わり、2019年以降世界はこうなる!

- ・ドルが基軸通貨である以上、米国の貿易赤字は解消されない
- ・米国は戦後4回ドルを切り下げ、借金を踏み倒してきた
- ・トランプは米国こそが「最大の為替介入国」であることを理解していない
- ・次のドル切り下げは、早ければ2019年、遅くとも2022年
- ・ドル切り下げで、日本、中国がもっとも損失を被る
- ・通貨バスケットSDRが基軸通貨におさまる可能性も
- ・史上最大の不動産バブルが、2022年までに弾ける
- ・2010年から金を買い越している中国

【本書の内容】

第1章 構造的な矛盾をかかえるドル基軸通貨

第2章 1994年が起点になった人民元の躍進

第3章 世界の負債が極点に達しつつある

第4章 米国と日本の部門別負債

第5章 中央銀行の信用創造の限界についての予備的な検討

第6章 リーマン危機のあと、4.8倍に増えている中国の負債問題

第7章 中央銀行の信用創造には、有効性の限界がある

第8章 主要国の負債の問題

第9章 中国の金融危機への対策

著者:吉田繁治(よしだしげはる)

1972年、東京大学卒業(フランス哲学専攻)。

流通業勤務の後経営と情報システムのコンサルタント。87年に店舗統合管理システムと受発注ネットワークのグランドデザイン。経営、業務、システムの指導。95年~2000年は旧通産省の公募における情報システムの公募で4つのシステムを受託し、開発。00年、インターネットで論考の提供を開始。



著者への取材、企画ご協力、読者プレゼントご対応も承ります。

《お問い合わせ先》

株式会社ビジネス社 広報担当:松矢

〒 162-0805 東京都新宿区矢来町114番地 神楽坂高橋ビル5F TEL03-5227-1602 / FAX 03-52271603